

七里ヶ浜道遙歌

矢橋恵一 作詞

一、松籟の音に 夢破れ

膚に寒し 二日月

窓辺に寄れば 有明の

荒磯に黒し 舟の影

二、眠る陽陰は ほの暗く

そぼ降る雨も 絹の糸

煙る相模の 沖遠く

滲むは雲か 三原山

三、陽陰麗らに 雲もなく

翠したたる 江ノ島を

恋ふるか沖の 真帆片帆

相寄る影も 長閑けしや

四、伊豆の山並 夕映えて

染め出る天城の 嶺淡く

暮るる浜辺に 人もなく

黄金花散る 波しぶき

五、相寄る影も 今は絶え

静寂に哀し 浜千鳥

灯影の郷は 遠くして

ただ囁ける 波の音

六、ああ我が故郷よ 七里浜

旅路の果てに 舞ふ千鳥も

流離の旅 今日果てて

溢るる幸に 憩ふなり

七、顧みすれば 衣張の

あなたに一つ 離れ雲

恋しき母の 俤に似て

優しく抱く 小坪浦

八、ああ我が七里 天地の

宴の浜に 佇めば

幸ひ満ちて 今日も呼ぶ

餌も嬉し 波の音

九、いでや朋輩 打ち連れて

彷徨ひ行けば 気も晴れて

心に憂さの 影もなく

歌ふ我等の 道遙歌

